

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	同一敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型居宅介護、居宅介護支援、訪問介護などがあり、安心して地域の中で生活ができるよう様々なサービスを提供しています。県民せいきょう福祉理念である「あなたらしさいつまでも」をもとに、さらに「10の基本ケア」を取り入れ、ひとりひとりの普通の生活を実現していけるように取り組んでいます。
事業所名	県民せいきょう小規模多機能型ホーム 江守きらめきハウス	管理者	小林 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	3人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの項目、改善計画を職員が目につきやすいスタッフルームなどに貼り出し、意識して行動できるようにする。 「あまりできていない」「ほとんどできていない」項目についてはなぜ出来ないのか、難しく感じていることを明らかにしていきます。その結果を毎週の小規模・認通合同ミーティングで共有していきます。 	シフト勤務である中で、ミーティングをしながら外部評価の振り返りなどを行ってきたが、現状、職員のわからないことについては確認できていない状況であった。合同ミーティングは今年度実施しておらず小規模多機能のみでの日々のミーティング時間を設けるよう変更し、日々の職員の意見交換につなげるようにしていきました。	勉強会など小規模職員内で行っている、職員全体の意識が同じ方向に向けるよう計画性を持って進めて欲しい。	外部評価については、小規模多機能部門全体において合同勉強会を予定し職員の理解を深めていきます。月1回、小規模会議を開催し、外部評価の改善計画について共有していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 建物1階玄関やサ高住スペースに毎月発行している広報誌を提示し、小規模多機能に興味を持ち、気軽に立ち寄っていただけるようにする。 	小規模多機能は2階にあるため、エレベータ前や階段に活動の様子や10の基本ケアの取組みについて定期的に写真やコメントを添えて提示したことで、見学者にも見ていただき、取組みについて沢山コメントを頂けるようになった。	特に用がなければはいらないし、中の様子はわからないので入りづらい。徘徊などされる方もいるので家族としては施錠してもらえると安心である。11月から会議に参加したことで家族からの事業所への関わりの必要性も感じている。	事業所外玄関に、営業中はウエルカムボードや活動予定、活動写真などを提示し、気軽に入れるような環境を整えていきます。これまで家族会などのイベントは地域交流ホールで行っていましたが、小規模多機能内で行うなど、出入りしやすい仕組みを作ります。インターフォンで聞こえないハード面に対して、ランプが光るなどの見える化したものを検討していきます。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 行事担当を作り、地域行事やイベントに積極的に参加し地域との関わりが深まるようにしていく。 「きらめき応援団」の募集や地域で 	<ul style="list-style-type: none"> 行事担当を月間で配置せず、お花見や初詣、個別買い物外出などを行い、事業所内だけで過ごさないように努めて来ました。 サロンについては、行われる内容を事前に案内し、参加したい方は参加して頂き、拠点内の交流などに繋げることができました。 	仕事が終わってひと段落がついてから、電話をすると遅い時間となり、ゆっくり話ができないと思い、電話をしないでいたこともあった。また、事業所に電話しても繋がらない時もあった。	地域貢献に向けて、拠点地域の早取りなど社会奉仕を行い、地域住民との顔が見える関係を構築していきます。業務携帯においては所持者固定となっているため、会議などで業務携帯に対応できない場合には他の職員と連携し、いつでも連絡がとれる体制をつくりま

	行っているサロン活動に参加しお互いに顔の分かる関係を作っていきます。	・「きらめき応援団」においては、ご家族含め、登録していただき、ご利用者との関係作りにつなげることができました。	た。 ケアマネ個人の携帯番号を教えてください。ということではないか。	す。 地域からの回覧物については2部依頼し、1期と2期に配布し情報を収集し、地域密着型事業所として地域行事に参加していきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・きらめき利用以外の時間に本人がどのように過ごしているかを本人、家族とコミュニケーションをとりながら把握する。必要に応じて訪問支援を行う。	・きらめき利用以外の過ごし方については送迎時の車内での会話であったりご家族から情報を頂くことで利用者の社会資源の情報収集に繋がることがあった。また、全てを小規模多機能で対応するのではなく、ご家族の支援の再確認であったりご近所つながりの支援の継続を提案するなどし、小規模多機能利用時のみの利用者像で捉えないよう共有した。	日中は1人で自宅にいることが多く、家族は仕事にいつってしまうので地域行事などには参加していないように思う。連絡帳などに外出された様子や写真が提示してあるので自分たちが出来ないことをしてもらって助かっている。	これまでの暮らしについて、再度、利用者・家族へ聴き取り行います。集約したものを全職員と共有しながら、『いままでの普通の暮らし』が継続できるように取り組みます。また、つながりのある社会資源についても継続・活用できるようご家族を含め話し合いながら進めていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議では地域の方と一緒に困難事例や問題を話し合い、たくさんお意見を頂ける場になるようにする。 ・地域の高齢者の動向を把握し、事業所としてできることの話し合いを行います。現在の民生委員の方の参加だけでなく、その他地域住民の参加をお願いしていく。 ・利用者が実際に過ごしておられるスペースにて運営推進会議を行う機会を設ける。	・これまで家族参加がなかったため、開催日時を変更しご家族の参加をいただけるようにしたことで普段のご自宅でのご利用者の様子やご家族の思いなどについて確認する場が設けられた。 ・地域高齢者動向については、社包括支援センターとの関係も構築され情報収集できたが、その後事業所として何が出来るかまで話し合えていない。 ・運営推進会議を小規模多機能で行うことはできなかったが、会議の後に小規模多機能の見学をしていただくことはあった。	開催日程を変更したことで家族が参加できてよかった。 事業所の取り組みをスライドなどで分かりやすく紹介してもらえたことで、ここの特徴として理解できた。 会議では事業所の取り組みなどの報告で終わることが多い。時間が決まっているので手際よく進めていくと他の話し合いもできるのではないか。	市のデータを収集し、地域高齢者状況の把握や拠点地域での課題など、自治会長や地域住民、包括支援センターと話し合いを行い、地域課題に向けて一緒に取り組めるような仕組みを構築していきます。
F. 事業所の防災・災害対策	・避難訓練には多くの利用者さんに参加していただく。(訓練日が通い利用予定でない方にも声をかける) ・避難訓練やAED訓練については地域の方にも案内し一緒に参加して頂く。	・避難訓練においては、事前に事業所内に提示しながら案内を行ってきた。 ・地域への案内がぎりぎりであり参加者も殆どいなかった。 ・地域の避難訓練には、参加した職員もいたが、事業所の避難訓練には参加呼びかけが弱く、ご家族への案内も今後課題として考えられる。	地域住民9名が毎年、7月に救命講習を受けている。AEDがこの地域では電子会社にしかないが、こちらにもあるのであれば活用させてほしい。	防災訓練の案内については計画性を持って早めに案内していく。 また、昨年の雪害により、災害対策として事業所に何ができていたのか、地域住民に何ができたのかなど振り返り、事業所の災害対策について地域に発信していきます。